

# 貝殻山貝塚について

## かいがらやまかいづか 貝殻山貝塚

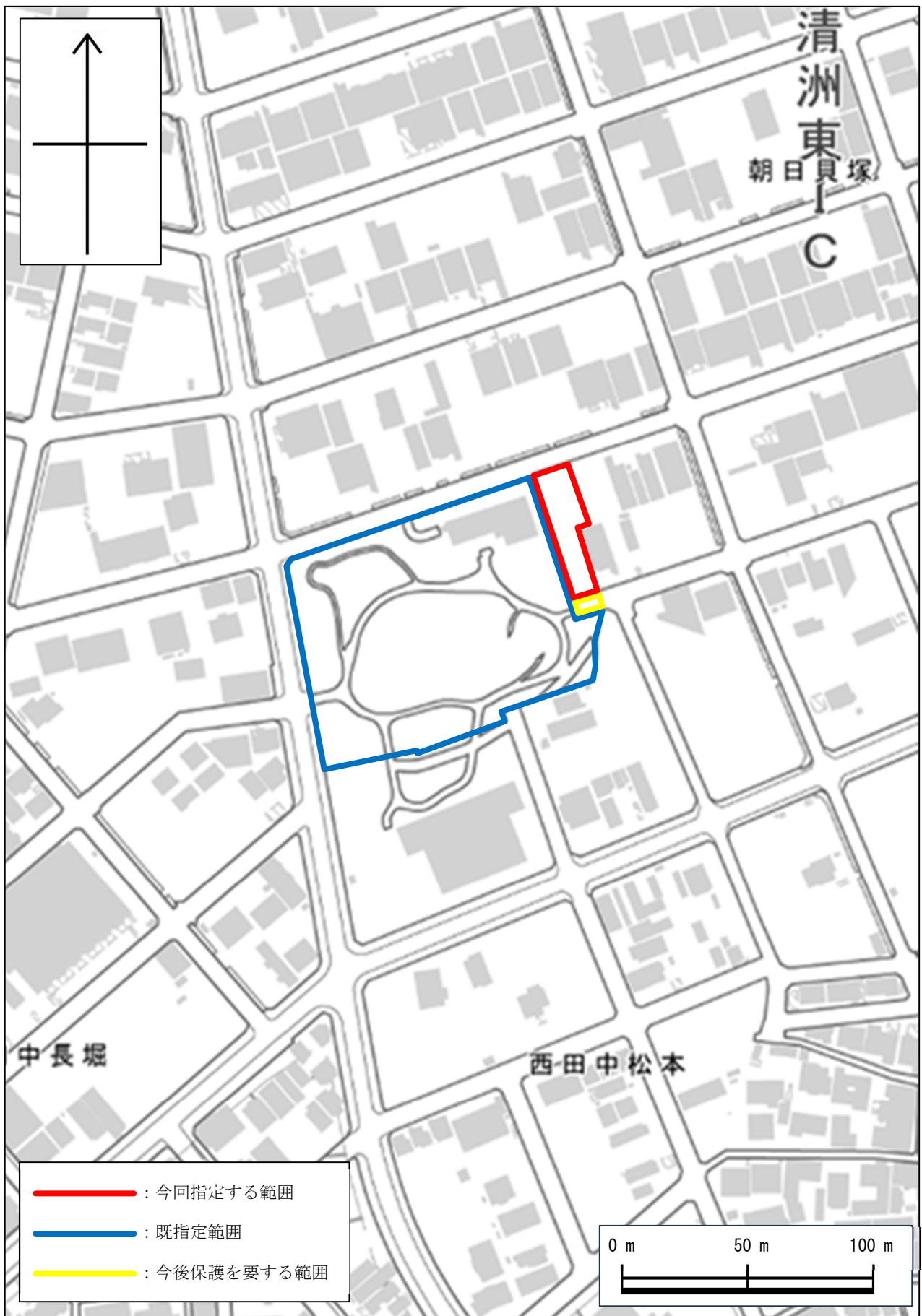
所在地	あいちけんきよすしあさひかいづか 愛知県清須市朝日貝塚24番 外1筆	
指定面積	既指定面積	10,169.00 m <sup>2</sup>
	今回追加指定面積	716.00 m <sup>2</sup>
	合計面積	10,885.00 m <sup>2</sup>

### 【概要】

史跡貝殻山貝塚は濃尾平野北東部の沖積地に立地する、弥生時代の貝塚を中心とする遺跡で、遠賀川系土器と在地の縄文系の系統を引継ぐ条痕文系土器が共伴し、古くから尾張地方最古の弥生遺跡として、また西日本を中心とする前期弥生文化の東限の遺跡として著名であった。1968(昭和43)年に愛知県は貝殻山貝塚と検見塚(けみづか)を愛知県指定史跡に指定。その後、土地改良事業に伴う発掘調査の成果から「弥生文化が東海地方に定着していった実相を明らかにする遺跡として重要」とされ、1971(昭和46)年12月15日に貝殻山貝塚が国の史跡に指定された(文部省告示第215号)。その後も史跡周辺における調査により、貝殻山貝塚を含む朝日遺跡が東海地方を代表する弥生時代集落であることが明らかになってきた。2020年11月22日のあいち朝日遺跡ミュージアム開館後は、日常的な維持管理が同ミュージアムにより行われている。

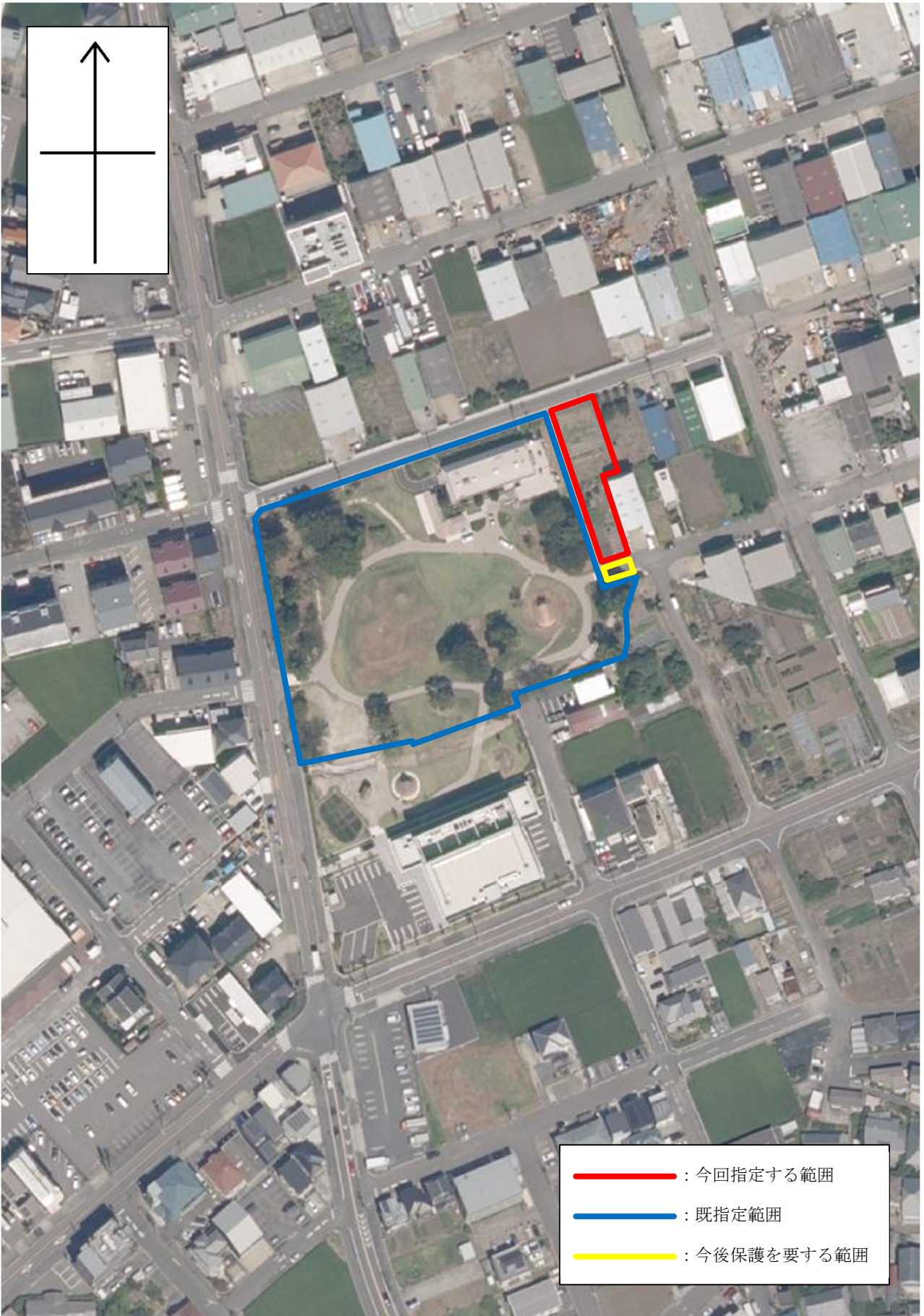
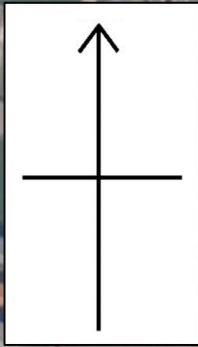
追加指定対象地は既指定地の東側隣接地で、2024(令和6)年に実施された確認調査によって弥生時代の包含層が残されていることが明らかとなった。当該地はこれまでの調査成果から、貝殻山貝塚を特徴づける弥生時代前期の環濠が位置すると推定されており、史跡のより一層の保護を図るために、今回史跡範囲の追加指定を行う。





※今後保護を要する範囲

将来的には史跡等として指定し、保護する必要がある範囲のこと。






-  : 今回指定する範囲
-  : 既指定範囲
-  : 今後保護を要する範囲



写真1 確認調査出土遺物



写真2 2017年調査T3前期環濠検出状況